

すてきなあなたへ

編集発行： 宮ノ台女性井戸端会議

連絡先： 佐倉市宮ノ台4-12-1

Tel&Fax： 043-461-7004

川崎簡易宿泊所火災に思う

～ある記憶に重ねて～

5月17日に起こった、川崎市川崎区の簡易宿泊所2棟が全焼した火災は、死者9名、重軽傷者19名を出す惨事となりました。届出と異なる3階建てに改造され入口が吹き抜け構造となっていたことが、火の回りを速くして惨事につながったようです。

筆者は、1970年代学生時代に横浜市中区寿町で港湾労働に友人と1日アルバイトに行っていたことがあり、簡易宿泊所とニュースで報道された時、その頃のことを思い出しました。

当日は朝早くJR石川町駅近くの、手配師といわれる幹旋者が来るといわれた場所に行き待っていると、「港の荷役作業〇人」と告げられ、その声に応え、その手配師の後について素早くマイクロバスに乗り込みました。素早く行動しないと、その日の仕事にあぶれることとなると事前に聞いてからです。マイクロバスは横浜港の棧橋に着き、そこから舳に乗って貨物船に乗り込みました。ヘルメットを被って、肥料と思われる紙袋を、貨物艙に下ろされた網製の大きなモッコに投げ入れる作業でした。1袋10kg位あったのでしょうか、支給された弁当の昼食と、15時頃の休憩（紙パックの牛乳が支給されました）を挟んで朝9時頃から夕方16時頃まで作業し続け、夕方には腰がパンパンにはりました。作業を終わって寿町に戻ると、港湾労働者向けの食堂やら、道路に衣類を並べて売っている場所がありました。その食堂で夕食をとりましたが、凄く安かったと記憶しています。

通りを歩いていると、手配師と思われる人から、「お兄さんたち学生だろう。現金が当日支払われるから来るのだろうけれど、中には金に釣られて居着いてしまう者もいるけれど、こんな所に来ちゃ行けないよ。」と忠告されました。

その日1日働いて、7千円を作業の終了時に、朝の手配師から受け取りました。アルバイトとしては、当時7千円は非常に高額だったと記憶しています。また、1日で報酬を得られるのは、魅力でした。その金で帰省し、今は亡き両親に寿町の経験を話して得意だった記憶があります。

その時見た寿町のドヤ街に立っていた建物は、2階建てで中央に廊下があり、1部屋は2畳位で寝るだけが“精一杯”の狭いものでした。港湾労働者はこういう所で暮らしているのかと、港ヨコハマの知られざる一面を見た印象深く記憶しています。

その後2007年に子どもの大学の「地域文化論」レポートの手伝いで再訪したことがあり、木造の建物がビル化されていたので、簡易宿泊所も「近代化」されたんだと認識していたため、今回の火災報道には意外な感じがしました。住宅、社会保障の貧困が「見える化」された事件であって、改善されるべきです。（宮ノ台 M.S）

嵐のような、あの佐倉市長選は、何だったのか？

～これからが大事、見抜く力の大切さ～

私は宮ノ台に住んで27年になるが、今回のような市長選を経験したのは初めてだ。無風で、無気力な市長選も少なくはなかったが、2015年4月、後味の悪い選挙になった。

2月末に、突如「順天堂大学誘致」を掲げて市長候補として躍り出たのがN候補だった。といっても、市議会では、2012年、大学誘致に関する「意見書」が多数決で採択され、誘致促進派の議員と市長との間では質疑が繰り返されていた。ユーカリが丘駅北口の再開発を計画している山万は、順大誘致を前提に土地区画整理事業や都市計画変更を進めようとしていたことも確かである。3回ほど開かれた地元説明会では、開催案内の回覧が間に合わない、配布資料が少ない、パワーポイントだけによる説明のこともあったらしい。その内容を見ると、6mの生活道路を3mの歩道つき道路に変更、戸建て区域を近隣商業地域に変更して、順大誘致、マンション計画を急ごうとする山万の姿勢が見えてくる。容積率なども変動し、土地区画整理、都市計画も、具体的には、佐倉市と協議中で「素案」にも至っていない段階である。その協議中の2013年、順天堂は、「山万からの3000坪無償貸与と24億円の公的支援」があれば進出するとの条件を佐倉市に提示した。が、それ以降、詳細な計画が市に示されないまま、補助金協議は中断の恰好で、順天堂の進出の本気度の曖昧さも伺われた。

にもかかわらず、突然、N候補サイドと「順天堂大学誘致の会」から次々と半端でない数のチラシが投函され、ネット上に流れる情報に、多くの市民は、戸惑い、驚いただろう。しかも、その内容は、市への公的支援要請の部分は明確にせず、順大誘致によって、人口減少を食い止め、消費や雇用が促進されるというメリットのみを強調し、それを進めない市長を糾弾するものだった。その上、選挙管理委員会と警察署が撤去要請を続けていた違反ポスターが、街中に氾濫し、投票日まで、撤去されることはなかった。投票日が近づくと、順天堂の“公式発表”なる虚偽の動画も流れた。市長サイドのチラシは、詳細計画が提示されない以上、市民への説明責任が果たせないのでは進められないと記すが、途中から、かなりフラフラし始めた。

私なりの情報収集で、つぎのような年表にまとめてみた。順天堂と佐倉市の関係というよりは、佐倉市と山万との関係に思えてくる。誘致問題突破のためにN候補が担ぎ出されたのだろう。市長が立ち上げた諮問機関「懇話会」の報告の中の「経済的波及効果の推計」だけが一人歩きをしたことにも危惧を覚えた。消費・雇用・税収が拡大し、大学建設時には64億円、以降毎年21億円という経済効果があるというシンクタンクの推計を根拠に、今日、大学の都心回帰の流れの中で、不安定極まりない大学運営のリスクを市民が担うことはない。これからは、開発計画の行方と再選された市長や市議たちの姿勢を注視しなければならないだろう。

ユーカリが丘駅北開発(山万)の動向	佐倉市および市議会の動向
2010・8・20 山万、市と事前相談開始	
2011・3・11 東日本大震災	
2011・3・27 「ユーカリが丘地域まちづくり協議会」発足、市の進める「まちづくり協議会」としては、広域すぎて不認証(2014年NPO法人ユーカリタウンネットワークへ)	
2012・10・3 「ユーカリが丘駅北土地区画整理組合設立準備会」(業務代行山万)発足	2012・10・23 「順天堂と佐倉市との連携協働に関する協定」締結
2013・4・10 同準備会「基本計画協議書」提出	2012・12・17 市議会「大学誘致に関する意見書」採択(反対5名)

<p>2013.7・6 同準備会、周辺住民への説明会開催（順大誘致構想中心に）。ユーカリが丘3丁目自治会は説明不足と反発、市へ要望書提出、11・9 ユーカリが丘自治会協議会の市長懇談会で市長は「準備会への指導を強化」との回答</p> <p>2013・12（・25）「わがまち」（山万広報誌）55号「順天堂大学の誘致がいよいよ始動します」の記事掲載</p> <p>2015・1・20 同準備会、土地区画整理事業は順大誘致を核とする「基本計画の変更」申請</p> <p>2015・2・27N候補、出馬表明</p> <p>2015・2・28 順大シンポで、「市長に順大誘致の意思なし」と学部長挨拶、「誘致実現のため」とN候補挨拶</p> <p>2015・3・11 同準備会、順大建設を核とする「都市計画の変更」事前相談書提出（一律近隣商業地域とし、建蔽率と容積率の80/200、80/300へ変更など）</p> <p>2015・3～「順天堂大学の佐倉回帰実現に向けての署名のお願い」配布</p> <p>2015・3・28「順天堂大学誘致の会」発足</p> <p>2015・4～「わがまち」59号「順天堂大学誘致の会発会式～」配布、「誘致の会ニュースレター」「順大誘致に新たな扉を開こう」などの数種のチラシ配布、「市民の皆様へ～順天堂からの公式発表」動画広告始まる</p>	<p>2013・11・28 順天堂小川理事長から市へ「学生870名規模、土地3000坪の山万からの無償提供と市から24億円補助を条件に進出するとの構想を提示</p> <p>2014・5・23～「佐倉市大学等の誘致に関する懇話会」発足、5回開催</p> <p>2015・1・9 同懇話会報告「大学誘致に伴う公的支援のあり方について」（1・22HP公表）</p> <p>2015・1・19 順天堂理事長から、市長との面談・協議を要請するも進展なく、市の早急な補助金額提示を要請</p> <p>2015・1・27 市から、大学用地を含む区画整理の基本計画・都市計画変更は協議中で、不確定な建設計画に補助金額は示せないと回答</p> <p>2015・4～ 市長、選挙運動用討議資料ほか「順天堂問題でわらび見解」（後援会制作）「わらび和雄後援会会報」などのチラシ配布</p>
<p>4・15 佐倉青年会議所、3 市長立候補者公開討論会開催</p> <p>4・19 告示日、選挙公報 22 日折りこみ</p> <p>4・26 投票日</p> <p>投票結果 蕨：33286 西田：25880 宇田：10306</p>	
<p>2015・4・30 ユーカリが丘駅北土地区画整理組合準備会による住民説明会（ユーカリが丘3丁目地区計画変更、学生2000名規模の第2期計画、大学用地以外の容積率を200%に引下げ）</p> <p>2015・5・7 同準備会による住民説明会（（2018年開校予定、誘致白紙の場合は佐倉市との協議停滞、計画変更も）</p>	

70号までたどり着きました！

◇ 遅遅たる歩みながら、70号です。宮ノ台の主婦が相寄って創刊したのが1998年1月、自分たちの小さな疑問を足や資料で確かめながら、書き続けてきました。ゲストのライターの方々には、自由な立場でご寄稿いただき、大いなる刺激を受けています。ポスティングの折や電話などで、皆さまから頂く感想は、とても励みになりました。編集・印刷・配布など、協力し合っのスタッフですが、今後ともよろしく願いいたします。◇ M.Sさん、深刻な火災事故とかつての貴重な体験を重ねられてのエッセイをありがとうございました。都内から宮ノ台に転居されてまもないとのこと、宮ノ台の印象はいかがですか。◇「映画招待席」の菅沼正子さんは、東京にお住まいですが、30号からの参加です。スタッフの若いときからの友人で、近代映画社の記者を経て、いまはフリーの映画評論家です。2年ほど続いた、NHK「ラジオ深夜便」の「菅沼正子の思い出のスクリーンメロディ」を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。この欄を「楽しみにしているの」との声も届き、うれしい限りです。（U.M）

菅沼正子の映画招待席 42

アリスのままで

—明日はわが身かもしれない—

高齢化社会になって「認知症」はいまや社会問題の一つである。年齢とともに記憶力の低下はだれもが避けられない現実だが、ヒロインのアリスは50歳の誕生日を迎えたばかり。若年性アルツハイマー病と診断されたのだ。アルツハイマー病は家族性のものなら遺伝の確率は50%、発症は100%だという。物語はアリスの視線で描かれ、この病と向き合うアリスの生き方がテーマである。原作は、ニューヨーク・タイムズ紙のベストセラーに40週もランクインし、世界各国で25の言語に翻訳されているリサ・ジェノヴァの「アリスのままで」。

コロンビア大学の教授であり、高名な言語学者として知られるアリス(ジュリアン・ムーア)。医学博士の夫(アレック・ボールドウィン)と3人の子ども。弁護士の長女はすでに結婚、長男は医学院生、高学歴家族の中で問題児的存在の次女は“わが道を行く”と高卒で女優志願。せめて大学ぐらいは……と勧めるも「私は自分を信じている」と反発。人生には何が正しいのか答えなどないのだから、見守るしかない。すばらしい家庭に恵まれいい人生だったと、アリスはホッと一息。子育てに仕事に無我夢中で、あっという間に50歳。これからは夫婦2人の生活。今こそ人生の充実期を迎えたのだ。

そんなある日、アリスは自分の異変に気づく。初めは公演中の言葉のド忘れ程度だったが、次第にジョギング中に自分のいる場所がわからず迷子になったり、トイレに迷って失禁するようなこともしばしば。どんどん頭の中の記憶も知識も、大切なものすべてが崩れ去っていき、絶望感でいっぱい。「がんなら恥ずかしくないのに」とアリスは嘆く。

認知症とアルツハイマーとは別の病気だそうだが、元大統領のレーガン氏、イギリスのサッチャー元首相、俳優のチャールトン・ヘストン氏など、若年性ではないにしろこの病に苦しめられた。私にも映画のさまざまな恐怖がよみがえる。日本映画で渡辺謙主演の「明日の記憶」(2005年)の恐怖は強烈だ。韓国映画の「私の頭の中の消しゴム」(2004年)。私の好きな「アウエイ・フロム・ハー 君を想う」(2006年)もジュリー・クリスティの好演で高い評価の忘れがたい秀作。

専門医の診断に家族の戸惑いは隠せない。人工授精で双子を妊娠中の長女は「今は検査ができるから大丈夫」と言うが、その声は震えている。問題児の次女はアリスが心配で同居することに。アリスが認知症の介護会議でスピーチすることになると「自分を信じてありのままをスピーチすればいい」と次女がアドバイス。勇気づけられたアリスは「無能力でこっけいな存在になってしまったけれど、それでも私は生きている。瞬間を生きている。悲劇ではない。苦しんではいない。チャレンジしている」と。会場は温かい拍手に包まれる。

自分の人生を精いっぱい生きる尊さを教えてくれたアリスに感謝。アリスを演じたジュリアン・ムーアは今年のアカデミー賞主演女優賞受賞。病んでいる時の精神状態、平常時の気持ち、その起伏を演技で見せてくれる。監督・脚本はリチャード・グラッツァーとウォッシュ・ウェストモアランドの共同。リチャードはALS(筋萎縮性側索硬化症)が発症、病と闘いながらの仕事である。

(6月27日より、新宿ピカデリー、シネスイッチ銀座ほか全国ロードショー)